

エージェント・シフト：Patsnap の AI 戦略と 2025 年知財・情報フェアにおけるその枢要な役割に関する詳細分析

Gemini Deep Research

Executive Summary

知的財産（IP）および研究開発（R&D）インテリジェンスの領域は、AI 技術の進化により、パラダイムシフトの渦中にある。この変革の中心にあるのが、単なる「AI ツール」から自律的にタスクを遂行する「AI エージェント」への移行である。本レポートは、この潮流を牽引するグローバルリーダー、Patsnap 社の AI 戦略、特にその中核をなす「Patsnap AI Agent」について、技術的基盤、市場でのポジショニング、そして日本市場における戦略的展開を徹底的に分析するものである。

Patsnap の AI エージェントは、同社独自の生成 AI「PatsnapGPT」を基盤とし、従来の単語ベクトルモデルと大規模言語モデル（LLM）のセマンティック理解を融合させることで、先行技術調査における Top100 の精度を 78%にまで高めるなど、専門領域に特化した高い精度を主張している。¹これは、汎用 AI が抱える信頼性の課題に対する直接的な回答であり、「Patent DNA」のような独自のデータ処理技術と組み合わせることで、競合に対する技術的な優位性を確立しようとする明確な意図がうかがえる。

市場環境は、Patsnap、Questel、Clarivate といった主要プレイヤーがほぼ同時に「AI エージェント」を市場投入する「AI 軍拡競争」の様相を呈している。各社は、データアクセスの提供という従来の価値提案から、複雑なワークフローの自動化へと競争の軸足を移している。この中で Patsnap は、特定のタスクを解決する「エージェント・スイート」という実践的なアプローチで差別化を図る。

特に注目すべきは、Patsnap が日本法人（Patsnap 合同会社）を通じて「2025 特許・情報フェア&コンファレンス」へ出展したことである。²日本は同社にとって最も成長著しい市場の一つであり³、同イベントは国内の知財コミュニティが生成 AI の実用的な応用を模索し、従来の IP ランドスケープ手法に幻滅感を抱いている絶好のタイミングで開催された。⁴ Patsnap の AI

エージェントが提供する「成果志向の自動化」は、この市場のニーズに的確に応えるものであり、同フェアへの参加は、単なるマーケティング活動を超え、日本の IP インテリジェンス市場における主導権を確立するための戦略的な一手であったと分析される。本レポートは、これらの動向を多角的に検証し、関係者各位に実用的な洞察と戦略的提言を提供することを目的とする。

1. イノベーションのアーキテクチャ：Patsnap AI エージェントプラットフォームの解体

Patsnap の AI エージェントの真価を理解するためには、その根底にある技術哲学とアーキテクチャを詳細に分析する必要がある。本セクションでは、従来のツールとの違い、独自の AI 技術、そしてそれを支えるデータ基盤とセキュリティ体制を解き明かす。

1.1. アシスタントからエージェントへ：IP インテリジェンスにおけるパラダイムシフト

Patsnap が提唱する最大の変革は、人間が操作する「AI ツール」から、人間が監督する「AI エージェント」への移行である。これは単なる呼称の変更ではなく、ユーザーの役割とプラットフォームの能力を根本的に再定義する戦略的な進化を意味する。

世界知的所有権機関（WIPO）への提出資料では、この二つのモードが明確に対比されている。¹ 「AI ツールモード」では、ユーザーが一部のタスクに対して情報を提供し、「独立して作業を完了させる」。これに対し、「AI エージェントモード」では、AI が「全権限を持つエージェント」として機能し、タスクを自律的に分解、ツールを選択、進捗を管理し、作業を完了させる。その間、ユーザーは「目標を設定し、リソースを提供し、監視する」役割を担う。¹

この区別こそが、Patsnap の新たな価値提案の核心である。これは、単に優れた検索ツールを提供するのではなく、自動化された「成果」を提供することへの移行を示唆している。情報検索の課題だけでなく、ワークフロー全体の非効率性に直接対処しようとするアプローチである。このシフトは、IP/R&D 専門家の役割を、戦術的なオペレーターから戦略的な監督者へと昇華させることを意図している。従来のツールモデルでは、ユーザーは検索式の構築、データのフィルタリング、分析のエキスパートであることが求められ、その認知的負荷は人間にあった。しかし、エージェントモデルでは、これらの戦術的ステップが抽象化される。ユーザーは

「この発明の新規性調査を実施せよ」といった戦略的目標を与えるだけで、エージェントがセマンティック検索、分類検索、キーワードのバリエーション展開といった複雑なサブタスクを自律的に実行する¹。結果として、ユーザーの主たる機能は、調査を「実行する」ことから、エージェントの成果を「検証し、最終的な戦略的判断を下す」ことへと変化する。これは、専門家に求められるスキルセットと、その専門家が組織にもたらす価値を根本的に変え、より純粋なアドバイザリー業務へと近づけるものである。

1.2. 内部構造：PatsnapGPT、セマンティック検索、そして Patent DNA

Patsnap がそのエージェントに専門家レベルの能力を与えると主張する独自の技術群は、同社の競争優位性の源泉である。

プラットフォームの心臓部には「PatsnapGPT」と名付けられた独自の生成 AI が存在する。¹ この AI は、従来のアルゴリズムが用いる単語ベクトルモデルと、生成 AI の LLM による高度なセマンティック（意味）理解能力を融合させている。このハイブリッドアプローチにより、セマンティック検索における上位 100 件の検索精度を 78%という高い水準にまで引き上げたと言われる。¹ 同様に、AI を活用した意匠・実用新案の画像検索においても、73.7%という業界をリードする精度を達成している。¹

特に注目すべきは「Patent DNA」と呼ばれる独自機能である。これは、PatsnapGPT が難解な特許公報のテキストを解析・転写し、「技術的課題」や「技術的效果」といった、人間が理解しやすく、かつ検索精度を向上させるための独自のフィールドを生成する技術である。¹ これにより、ユーザーはよりの確に関連文献を発見することが可能になる。さらに、システムは検索拡張生成（RAG: Retrieval-Augmented Generation）や検索拡張思考（RAT: Retrieval-Augmented Thinking）といった先進的な AI 技術を活用し、より高品質で信頼性の高い応答を実現している。⁶

これらの具体的かつ定量的な主張は、汎用 LLM が専門領域で抱える最大の弱点、すなわち精度の欠如、信頼性の低さ、そして「ハルシネーション（もっともらしい嘘の情報を生成する現象）」への直接的な対抗策である。IP や R&D に関する意思決定は、重大な法的・財務的リスクを伴うため、何よりも正確性が求められる。Patsnap は、78%（セマンティック検索）、73.7%（画像検索）といった具体的な精度数値を公表し¹、汎用 LLM よりも 60%高い精度を実現したと主張することで⁵、市場からの信頼を獲得し、他社との差別化を図っている。特に「Patent DNA」は単なる検索補助機能にとどまらず、独自のデータエンリッチメント（データ付加価値向上）プロセスそのものである。これにより、汎用モデルではアクセス不可能な独自の構造化データセットが生成され、競合に対する参入障壁をさらに強固なものにしている。

1.3. 基盤としてのデータ：Patsnap 独自のイノベーションデータセットの分析

AI の性能は、その学習データの質と量に大きく依存する。Patsnap の AI エージェントが動作する基盤となるデータセットは、その広範さと多様性において際立っている。

プラットフォームは、特許、科学論文、訴訟、技術セクターにわたる 20 億以上の構造化されたデータポイントへのアクセスを提供する。⁶ このデータセットは、生物医学や科学研究を含む 20 の専門分野を網羅している。⁶ 具体的には、1 億 7,500 万件以上のグローバル特許データ、1 億 6,000 万件以上の科学文献データ、そして 2 億 6,000 万件以上の法務データが含まれる。⁸ さらに、学術雑誌や技術報告書といった非特許文献もカバーしており、ユーザーは多角的な情報源を横断した分析が可能となる。¹⁰ この広大で多角的なデータセットこそが、AI エージェントに、特許データと科学文献、市場動向を結びつけるといった、複雑で学際的な分析を実行させることを可能にしているのである。

1.4. AI 時代における信頼とセキュリティの確保

企業の R&D 部門や法務部門にとって、データのセキュリティと機密保持は譲れない絶対条件である。Patsnap はこの点について明確な方針を打ち出している。

同社は、ユーザーのプライバシーデータを大規模モデルのトレーニングに収集することはない、ユーザーがツールを使用する際の入出力データを厳格に保護すると明言している。¹ この方針はマーケティングメッセージでも一貫しており、「強力な AI 機能。あなたのデータでトレーニングされることはありません」と強調されている。⁶ さらに、プラットフォームはクラウド版だけでなく、オンプレミス版での導入も可能であり、ユーザーは自社のプライバシーポリシーや管理体制に応じて最適な環境を選択できる。⁷ ISO 認証を取得したセキュリティポリシーと厳格なデータ分離も、その信頼性を裏付けている。⁶ これは、ユーザーの入力がモデルの学習データとして利用される可能性のある一般公開された生成 AI ツールとの決定的な違いである。未公開の機密性の高い発明情報などを入力するユーザーにとって、この保証は不可欠な要素となる。

2. Patsnap AI エージェントの分類学：イノベーションライフサイクル全体を網羅する機能群

本セクションでは、Patsnap Eureka プラットフォーム内で提供される具体的な AI エージェント群を機能的に分類し、それぞれがどのようなユーザーの、どのような課題を解決するために設計されているのかを詳細に解説する。

2.1. IP エージェント・スイート：知的財産コア業務の自動化

これらのエージェントは、弁理士、特許技術者、IP アナリストといった知財専門家が最も時間を費やす定型業務を自動化するために設計されている。

- **Novelty Search（新規性調査）**：先行技術調査を自動化するエージェント。人間の専門家による調査プロセスを模倣し、ユーザーが入力した技術説明を自動的に技術的特徴に分解する。その後、セマンティック検索、分類検索、複数のキーワード検索（類義語、AI フィールド検索など）、さらには引用・被引用ファミリー検索といった複数の戦略を並行して実行する。最終的なアウトプットは、単なる文献リストではなく、比較対照表と最終レポートとして生成される¹。これにより、特許性判断に不可欠な調査の速度と網羅性を劇的に向上させる。
- **Patent Drafting（特許明細書作成）**：クレーム（特許請求の範囲）や発明の開示内容を分析し、高品質な特許明細書の草案を生成する⁶。発明内容を法的に有効な文書へと変換するプロセスにおけるボトルネックを解消することを目的とする。
- **Design FTO Search（意匠 FTO 調査）**：製品の外観デザインについて、他者の権利を侵害していないかを調査する（Freedom-to-Operate）。製品発売前の法的リスクを低減するために不可欠なプロセスである。⁷
- **Invention Disclosure（発明届出）**：技術的なアイデアを構造化された発明届出書へと変換する AI ツール。特許化プロセスの最初のステップを効率化し、標準化する。⁸

2.2. R&D エージェント・スイート：アイデア創出、実現可能性評価、問題解決の加速

このスイートは、R&D エンジニア、研究者、マネージャーを対象とし、IP インテリジェンスを研究開発プロセスそのものに直接組み込むことを目指している。

- **Technical Q&A（技術 Q&A）**：技術的な質問に対し、エビデンスに基づいた的確な回答を提供する。R&D における様々な課題に対するワンストップソリューションとして機能する。⁵
- **Find Solutions（解決策の発見）**：TRIZ（発明的問題解決理論）や第一原理思考といった体系的な問題解決手法を活用し、質の高い技術的解決策を生成し、研究者の創造性を刺激する⁵。これにより、プラットフォームは単なる分析ツールから、能動的なアイデア創出パートナーへと進化する。
- **Solution Feasibility Analysis（解決策の実現可能性分析）**：ユーザーが提案した解決策に対し、専門的な実現可能性評価と具体的な実装推奨を提供する。⁵
- **Quick Research（クイックリサーチ）**：新しい技術分野の技術的な実現可能性や市場ポテンシャルを評価するためのスカウティングレポートを迅速に生成する。⁵
- **DFMEA Assistant（DFMEA アシスタント）**：設計 FMEA（Failure Mode and Effects Analysis：故障モード影響解析）を自動で実施する。⁵

2.3. 専門分野特化型エージェント：ライフサイエンスと材料科学への深耕

特定の産業分野が持つ独自のデータ構造や課題に対応するため、Patsnap は専門分野に特化してトレーニングされたエージェントを開発している。

- **ライフサイエンス（LS）エージェント**：
 - **Pharma Insights Advisor（製薬インサイトアドバイザー）**：創薬、医薬品開発、競合情報に関する質問に回答する。⁶
 - **Markush Claim Drafting（マーカッシュクレーム作成）**：新規化合物に関するマーカッシュ形式（選択枝を含む化学構造式）のクレームや明細書記載を効率的に作成する。これは非常に専門性が高く、複雑な作業である。⁶
 - **Antibody -Target Predictor（抗体-標的予測）**：医薬品候補の選定において、抗体と標的の間の関係性を検証・スクリーニングする。⁶
- **材料科学（Materials Science）エージェント**：
 - **Material Scout（材料スカウト）**：引張強度や熱伝導率など、ユーザーが指定した物性値の範囲に合致する材料を探索する。⁶
 - **Alloy Researcher（合金リサーチャー）**：合金の組成データを抽出し、金属元素を分析、関連する技術的解決策を検索し、結果を Excel 形式で可視化して出力する。⁶

表 1：Patsnap AI エージェント・スイート 機能概要

エージェントカテゴリ	具体的なエージェント名	主な機能	主なユーザーと解決される課題
知的財産 (IP)	Novelty Search	マルチ戦略アプローチによる先行技術調査の自動化、比較表・レポート生成	IP アナリスト、弁理士：特許性判断のための調査時間短縮と品質向上
	Patent Drafting	発明開示情報から特許明細書の草案を自動生成	弁理士、企業知財部員：明細書作成の効率化と時間短縮
	Design FTO Search	製品外観デザインに関する権利侵害調査 (FTO) の実施	製品デザイナー、法務部員：製品ローンチ前の法的リスクの低減
	Invention Disclosure	技術アイデアを構造化された発明届出書フォーマットに変換	R&D エンジニア、発明者：発明提案プロセスの効率化と標準化
研究開発 (R&D)	Technical Q&A	エビデンスに基づいた技術的な質問への回答	R&D エンジニア、研究者：技術的課題の迅速な解決
	Find Solutions	TRIZ や第一原理思考を活用した技術的解決策の生成	R&D マネージャー、エンジニア：技術的ブレークスルーやアイデア創出の促進
	Solution Feasibility Analysis	提案された技術的解決策の実現可能性を	プロジェクトリーダー、エンジニア：新

		評価し、実装を推奨	規プロジェクトの妥当性評価
	DFMEA Assistant	設計 FMEA（故障モード影響解析）の自動実施	品質保証担当者、設計エンジニア：製品信頼性評価の効率化
ライフサイエンス (LS)	Pharma Insights Advisor	創薬、開発、競合インテリジェンスに関する質問への回答	製薬研究者、事業開発担当者：意思決定の迅速化と精度向上
	Markush Claim Drafting	マーカッシュ構造のクレームおよび明細書記載の効率的な作成	化学・バイオ分野の弁理士：複雑な化学特許出願書類作成の効率化
	Antibody-Target Predictor	抗体と標的の関係性を検証し、医薬品候補をスクリーニング	バイオ医薬品研究者：候補分子選定プロセスの加速
材料科学 (Materials)	Material Scout	指定された物性値に合致する材料を探索	材料科学者、エンジニア：新規材料開発や代替材料探索の効率化
	Alloy Researcher	合金の組成データを抽出し、技術的解決策を Excel 形式で可視化	金属材料エンジニア：合金設計や競合製品分析の迅速化
技術スカウティング	Quick Research	技術の実現可能性と市場ポテンシャルに関するスカウティングレポートを生成	新規事業開発担当者、R&D 戦略担当者：新規技術分野の初期評価

	Company Search	競合他社やパートナー候補に関するインサイトを探索・発見	M&A 担当者、アライアンス担当者：デューデリジェンスやパートナー探索の効率化
--	----------------	-----------------------------	---

3. AI 覇権を巡る戦い：Patsnap の市場ポジショニングと競争力学

Patsnap の AI エージェント戦略は、真空状態で展開されているわけではない。本セクションでは、同社の市場投入メッセージを分析し、同時に独自の AI 搭載プラットフォームを発表している主要な競合他社との比較を通じて、Patsnap の立ち位置を明らかにする。

3.1. 新カテゴリーの定義：Patsnap の「業界初」を掲げた市場投入戦略

Patsnap とその投資家は、同社の AI エージェントを「カテゴリーを定義する飛躍」であり、「業界初」の試みとして位置づけている。¹² その中核的なメッセージは、人間の専門知識を「増強し、向上させる」ことであり、退屈な作業を排除してチームが「より活気のある仕事に時間を割けるようにする」ことにある。⁷ そして、その投資対効果（ROI）は「イノベーションを 75%速く、25%低いコストで」という具体的な数値で示されている。⁷ この攻撃的なポジショニングは、Patsnap を知的財産におけるエージェント型 AI という新しいパラダイムの市場リーダーかつイノベーターとして確立し、今後の市場における議論の土俵を自ら設定しようとする意図の表れである。

3.2. 既存競合の対応：Questel と Clarivate の AI イニシアチブ分析

IP インテリジェンス市場の他の主要プレイヤーも、Patsnap の動きに呼応するように、独自の AI ビジョンを打ち出している。

- **Questel:**
 - **プラットフォーム/エージェント:** Questel の AI 戦略は、「業界初のクロスソリューション AI アシスタント」と位置づけられる「Sophia」¹³ と、特許・商標業務の生産性を向上させる AI 搭載ワークスペース「Qthena」¹⁴ を中心に展開されている。
 - **機能:** Sophia は自然言語から検索クエリを構築し、文書を要約する能力を持ち、Questel の広範なデータセットでトレーニングされている。¹³ Qthena はワークフローを最大 90% 自動化することを目指し、文書のレビューや分析のための共同作業スペースを提供する。¹⁴ また、文書の自動分類ツール「AI-Classifier」のような専門ツールも提供している。¹⁵
 - **戦略:** Questel は、統合されたエコシステムと、責任ある倫理的な AI アプローチを強調している。¹⁶ 「Sophia」という単一の AI ペルソナを中心としたブランディングは、統一されたプラットフォームワイドなユーザー体験を重視する戦略を示唆している。
- **Clarivate:**
 - **プラットフォーム/エージェント:** Clarivate もまた、同社の最高級データ資産である Web of Science を活用した「Web of Science Research Assistant」を擁し、「エージェント型 AI (agentic AI)」への移行を明確に打ち出している。¹⁸ さらに、大学や研究機関が独自の AI ツールを構築できる「Agent Builder」の提供も計画している。¹⁹
 - **機能:** 同社のエージェントは、文献の統合、研究ギャップの特定、研究者と資金提供機会のマッチング、研究パフォーマンスの比較分析といった、複数のステップからなる複雑なタスクを実行するように設計されている。¹⁹
 - **戦略:** Clarivate の最大の差別化要因は、そのデータ基盤にある。同社のメッセージは、AI ソリューションの信頼性は、Web of Science Core Collection のような「クラス最高のデータ資産」に基づいているからこそ担保される、という点を一貫して強調している。¹⁸ これは、最高の AI は最高のデータを必要とするという、データ中心のアプローチである。

3.3. 国内チャレンジャーの台頭：日本における AI-IP ソリューションの状況

日本市場には、AI を積極的に導入している成熟した国内 IP サービスプロバイダーのエコシステムが存在する。

- **主要プレイヤー：AI Samurai:** 「AI 特許審査シミュレーションシステム」(AI Samurai ONE) や対話型の特許明細書作成ツール (AI Samurai ZERO) を提供している。²² その価値提案は、特許調査コストの削減と出願プロセスの簡素化に焦点を当てている。²²
- **その他のプレイヤー:** 2025 年知財・情報フェアの出展者リストには、IPACTO (「高度な

IP 実務のための AI 搭載サービス」）、アイビーリサーチ（「ステートメント生成 AI」）、amplified ai（「特許情報のための AI プラットフォーム」）など、AI を活用した IP サービスを提供する多数の企業が名を連ねていた。² これは、日本市場が非常に競争が激しく、かつ知識レベルの高い市場であることを示している。

IP インテリジェンス市場は、データアクセスからワークフローの自動化へと競争の軸足を移す「AI 軍拡競争」の段階に入った。Patsnap の Eureka Agents¹²、Questel の Sophia¹³、Clarivate の Agentic AI¹⁹ という、主要 3 社によるほぼ同時の「AI エージェント」発表は、この市場全体のピボットを明確に示している。もはや競争の基盤は、人間が分析するためのデータを提供することではなく、分析そのものを実行するエージェントを提供することにある。「誰が最も多くのデータを持っているか」という問いから、「誰の AI が最も複雑なワークフローを最も高い精度で達成できるか」という問いへと、競争の戦場は移行したのである。

さらに、最終的な目標は類似しているものの、トップコンペティター各社は自社の AI 製品を根本的に異なる方法でフレーミングしており、これは各社の核となる強みを反映している。Patsnap は、特定の業務に対応する特定のツールを提供する、タスク指向の「エージェント・スイート」モデルを採用している⁶。これはプロダクト主導の実践的な戦略であり、明確で差し迫った課題を抱えるユーザーに訴求する。一方、Questel は AI を「Sophia」という単一のペルソナに集約している¹³。これはブランド主導のプラットフォーム戦略であり、全製品にわたって統一された対話型体験の創出を目指している。そして Clarivate は、最も有名な資産である Web of Science を前面に押し出している¹⁸。これはデータ主導の戦略であり、AI の出力は入力データ次第であり、自社のキュレーションされた高品質なデータこそが優れた基盤を提供する、と主張する。これらの異なるアプローチは、異なるタイプの購買層に響き、各社の長期的な戦略的優先事項を示唆している。

表 2：IP インテリジェンスにおける AI の競争環境

企業名	主力 AI プラットフォーム/エージェント	主な宣伝機能	中核的な戦略的差別化要因
Patsnap	Eureka AI Agents	マルチ戦略新規性調査、特許明細書作成、材料探索、創薬支援など、多岐にわたる専門エージェント群	タスク指向のワークフロー自動化：イノベーションライフサイクル上の各タスクに特化したエージェントを提供し、

			具体的な業務効率化を実現する。
Questel	Sophia / Qthena	自然言語によるクエリ構築、クロスソリューション AI アシスタント、AI 搭載の共同作業ワークスペース	統一されたプラットフォーム体験： 「Sophia」という単一の AI ペルソナを通じて、検索から管理までシームレスで直感的なユーザー体験を提供する。
Clarivate	Web of Science AI Agents	Web of Science の高品質データを活用した文献統合、研究ギャップ分析、資金提供機会のマッチング、カスタムエージェント構築ツール	プレミアムデータ基盤： 信頼性の高い Web of Science データを AI の基盤とすることで、出力結果の品質と信頼性で他社を凌駕する。
AI Samurai	AI Samurai ONE / ZERO	日本特許庁の審査基準を学習した AI による特許審査シミュレーション、対話型明細書作成支援	日本市場への特化： 国内の審査実務に精通したシミュレーション機能と、国内ユーザーに焦点を当てたコスト効率の高いソリューション。

4. 戦略的焦点 日本：2025 年知財・情報フェアにおける Patsnap の存在意義の分析

本セクションでは、日本市場と 2025 年知財・情報フェアという特定の文脈を分析し、

Patsnap の参加が極めて戦略的かつ時宜を得た一手であったことを論じる。

4.1. 2025 年フェア：生成 AI ブームと IP 戦略再編の合流点

「2025 特許・情報フェア&コンファレンス」は、9 月 10 日から 12 日まで東京ビッグサイトで開催された。² 過去の同イベントの分析からは、二つの対照的なトレンドが浮かび上がる。一つは、生成 AI 関連展示の爆発的な「ブーム」であり、もう一つは、数年前まで注目の的であった IP ランドスケープ関連展示の「沈静化」である。後者は、市場の過度な期待が現実によって修正される「幻滅期」に入ったと指摘されている。⁴

この背景には、Patsnap の主要なターゲットである日本の知財コミュニティが、AI の実用的で効率的な応用を強く求めていることがある。美しくはあるが、作成に多大な工数がかかり、しばしば実行不可能な静的なレポートを生み出す複雑な分析プロジェクト（IP ランドスケープ）に対して、市場は疲弊感を抱いている。⁴

この IP ランドスケープに対する「幻滅期」は、エージェント型 AI にとって市場の空白を生み出している。IP ランドスケープに対する中心的な批判は、「モノ」（物理的な報告書）と「コト」（意思決定という活動）の混同にある⁴。顧客は「モノ」のために対価を支払うことに倦んでいる。Patsnap の AI エージェントは、この「コト」を自動化することを約束する。例えば、Novelty Search エージェントは単にレポートを作成するのではなく、調査と分析のワークフロー全体を実行し、その成果物として比較対照表を提供する¹。これは市場のペインポイントに直接応えるものである。静的な成果物を生成するサービスから、動的な機能を実行するツールへの転換を提案する。したがって、Patsnap は自社のエージェントを、IP ランドスケープが幻滅期に陥った原因となった諸問題を解決する次世代の進化形として位置づけることが可能となる。

4.2. Patsnap の出展とその重要性

2025 年フェアの公式出展者リストには、「Patsnap 合同会社」の参加が明記されていた。² この事実は、日本が過去 2～3 年にわたり Patsnap にとって「最も成長著しい市場」であったという情報と合わせて考慮する必要がある。³ 同社はすでに東京で「Patsnap・フロンティア会議」を開催するなど、日本でのプレゼンスを着実に構築してきた。³

したがって、今回の出展は、日本市場への試験的な進出ではなく、すでに実績のある高成長地

域での地位を盤石にするための意図的な一手であった。これは、単なるマーケティングイベントではなく、戦略的な一撃であったと見るべきである。**Patsnap** は日本を主要な成長エンジンと特定し³、日本の IP 市場は、その最大級のカンファレンスのテーマが示したように、生成 AI の誇大広告を超えて、具体的で自動化された成果を提供するソリューションを求めている⁴。そして **Patsnap** は、まさにこの市場感情に合致した製品、すなわち AI エージェントを市場に投入したばかりである。したがって、2025 年フェアへの出展は、この新しいパラダイムを、最も受容性が高く、最も急成長しているオーディエンスに直接披露するための理想的な舞台となり、市場の転換点において大きなシェアを獲得することを狙った、計算された行動であった。

4.3. 展開された戦略：Patsnap のブースとプレゼンテーションの分析

これまでの分析に基づき、イベントにおける **Patsnap** の戦略的焦点は、以下のようなものであったと分析できる。

- **ライブデモンストレーション:** 特に **Novelty Search** や **Patent Drafting** エージェントの、エンドツーエンドのワークフロー自動化を示す、インタラクティブなライブデモに重点が置かれたと考えられる。
- **ROI 重視のメッセージング:** 「75%速く、25%低いコストで」という主張を繰り返し⁷、抽象的な分析能力よりも具体的な効率化のメリットを強調したと見られる。
- **IP ランドスケープとの対比:** AI エージェントを、静的なレポートではなく自動化されたワークフローを強調することで、従来の IP ランドスケープの欠点に対する「答え」として位置づけた可能性が高い。
- **セキュリティと信頼性:** 企業の法務・R&D 部門からの信頼を醸成するため、データプライバシーとセキュリティポリシー¹がプレゼンテーションで強調されたと考えられる。

5. 統合的考察と将来展望

本セクションでは、**Patsnap** の戦略と IP インテリジェンス市場の将来について、バランスの取れた未来志向の評価を行う。

5.1. 多角的な評価：強み、弱み、そして機会

- **強み:** イノベーションライフサイクル全体をカバーする包括的なエージェント群⁶、精度に関する強力な定量的主張¹、明確なセキュリティとプライバシーへのスタンス¹、そして日本のような主要市場での確かな成長実績³が挙げられる。
- **弱み・リスク:** 「エージェント」モデルは新しく、非常に複雑または曖昧なケースにおける実世界での有効性は、まだ独立した検証を待つ必要がある。市場は Questel や Clarivate といった主要競合の類似製品で混雑し始めている。また、自動化への過度な依存は、長期的には若手 IP 専門家のスキルを低下させ、業界の人材パイプラインに問題を生じさせる可能性がある。
- **機会:** もしその信頼性を証明できれば、AI 駆動の IP ワークフロー自動化におけるデファクトスタンダードとなる大きな機会がある。また、エージェントのコンセプトを他の企業機能（例：M&A のデューデリジェンス、マーケティング部門向けの競合インテリジェンス）に拡大することは、論理的な次のステップである。

5.2. エージェント型 AI の軌跡：IP および R&D インテリジェンス市場の未来動向

現在の「AI 軍拡競争」は、今後さらに進化する可能性が高い。次の競争領域は以下のように予測される。

- **ハイパー・スペシャライゼーション（超専門化）:** 化学や工学の特定のサブフィールドなど、さらにニッチなデータセットでトレーニングされたエージェントが登場するだろう。
- **カスタマイズと相互運用性:** Clarivate の「Agent Builder」が示唆するように¹⁹、ユーザーが独自のエージェントを構築したり、異なるベンダーのエージェントを連携させたりする能力が重要になる。
- **予測分析:** 過去の分析（先行技術）から未来の予測（技術トレンドの予測、訴訟結果の予測）へと、AI の役割が進化していくことが期待される。

6. 実践的な洞察と戦略的提言

最終セクションでは、本レポートの分析を、ターゲットオーディエンス向けの具体的かつ実行可能なアドバイスに落とし込む。

6.1. 導入検討者（企業知財・R&D 部門、特許事務所）向け

- **提言:** 導入は、構造化されたパイロットプログラムを通じて行うべきである。ベンダーの主張のみに依存してはならない。
- **行動計画:**
 1. 結果が既知である過去のクローズした案件（例：最終的に先行技術が発見された過去の新規性調査）を 3～5 件選定する。
 2. これらの案件を **Patsnap** の **Novelty Search** エージェントで実行し、その結果（速度、コスト、精度）を、過去の人間による作業と比較・評価する。
 3. AI が生成した特許明細書の草案を、品質、クレーム範囲、社内基準への準拠といった観点から批判的に評価する。
 4. IT およびセキュリティチームを巻き込み、**Patsnap** のオンプレミスまたはクラウドのセキュリティアーキテクチャ⁶が、自社のデータガバナンスポリシーに適合するかを厳格に検証する。

6.2. 競合他社（Questel、Clarivate、国内企業）向け

- **提言:** 競争上のメッセージを、機能の同等性から戦略的な差別化へとシフトさせるべきである。
- **行動計画:**
 1. **Questel:** 「Sophia」による統一された体験をさらに強化する。検索から管理まで、IP ライフサイクル全体にわたるシームレスな統合と使いやすさを強調する。
 2. **Clarivate:** 「プレミアムデータ」の優位性を徹底的に訴求する。「Garbage in, garbage out（ゴミを入れればゴミしか出てこない）」という議論の枠組みを作り、**Web of Science** を信頼できる AI のための唯一の基盤として位置づける。
 3. **AI Samurai** およびその他国内企業: ホームグラウンドの利点を最大限に活用する。優れた日本語 NLP（自然言語処理）、日本の法務実務（JPO）との深い統合、そして献身的な国内サポートを主要な差別化要因として前面に押し出す。

6.3. 業界関係者（2025 年フェア参加者）への提言

- **提言:** フェアは終了したが、**Patsnap** のブースを訪れた参加者は、マーケティングプレゼ

ンテーションの表面的な情報にとどまらず、本質を突く質問を投げかけることが重要であった。今後の評価においても、以下の視点は引き続き有効である。

- 今後も有効な主要な質問:

1. 「貴社の Novelty Search エージェントは 78%の精度を主張していますが、このベンチマークの方法論を定義していただけますか？ 何をもって『正しい』結果と見なしているのですか？」（¹の主張を深掘りする）
2. 「人間の直感が通常必要とされる、非常にニュアンスに富んだ、あるいは定義が曖昧な技術コンセプトを、AI エージェントはどのように処理するのですか？」
3. 「事前に準備された例ではなく、こちらが提供した発明開示情報を用いて、スクリプトなしのライブデモを見せていただくことは可能ですか？」
4. 「最終的なレポート以外に、AI が特定の先行技術文献を他のものより優先して選択した『思考』プロセスを理解するための監査証跡は提供されますか？」（AI のブラックボックス問題に切り込む）

引用文献

1. Overview of Patsnap - WIPO, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://confluence.wipo.int/confluence/download/attachments/1640665080/Topic%2013%20-%20Commercial%20IP%20Database%20Platforms%20Features%20C%20Services%20C%20and%20Business%20Applications%20-%20Patsnap.pdf?version=1&modificationDate=1746613249866&api=v2>
2. 特許・情報フェア, 9 月 20, 2025 にアクセス、<https://pifc.jp/2025/>
3. 日本を目指すシンガポール発 SU (1) Patsnap、AI で知財活用を変革 | 地域・分析レポート - ジェトロ, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2024/74798653019de35f.html>
4. 知財情報フェア 2025 で感じたこと | AI の熱狂と IP ランドスケープの静寂 - note, 9 月 20, 2025 にアクセス、<https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>
5. Maximize efficiency and fuel productivity with AI Agents, 9 月 20, 2025 にアクセス、<https://eureka.patsnap.eu/>
6. Patsnap Eureka : AI-powered innovation solutions platform, 9 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.patsnap.com/products/eureka>
7. Patsnap | AI-powered IP and R&D Intelligence, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.patsnap.com/>
8. Patsnap Products | Read 14 Reviews on G2, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.g2.com/sellers/patsnap>
9. Eureka Reviews 2025: Details, Pricing, & Features G2, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.g2.com/products/patsnap-eureka/reviews>
10. Patsnap: AI IP Intelligence for Innovation - AI Agents | Saastrac, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://aiagents.saastrac.com/ai-agent/patsnap/>
11. AI Agents for Materials Science Workflows - Eureka by Patsnap- YouTube, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=ldZkjqQ87Jg>

12. Patsnap Launches Industry-First AI Agents to Supercharge R&D and IP Innovation, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.vertexventures.sg/news/patsnap-launches-industry-first-ai-agents-to-supercharge-r-d-and-ip-innovation/>
13. Sophia, Generative AI and IP Solution - Questel, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.questel.com/ip-innovation-and-professional-solutions/sophia-generative-ai-and-ip-solution/>
14. AI assistant for patent and trademark productivity | Qthena - Questel, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.questel.com/qthena/>
15. Patent Classification – AI-Classifier - Questel, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.questel.com/patent/ip-intelligence-software/ai-classifier/>
16. Artificial Intelligence and Intellectual Property – Questel, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.questel.com/artificial-intelligence-and-intellectual-property/>
17. Patent Prosecution Process & Prep AI Copilots - Questel, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.questel.com/patent/patent-preparation-patent-prosecution-process-copilots/>
18. Web of Science AI Research Assistant - Clarivate, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://clarivate.com/academia-government/scientific-and-academic-research/research-discovery-and-referencing/web-of-science/web-of-science-research-assistant/>
19. Clarivate introduces agentic AI for research and learning, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.researchinformation.info/news/clarivate-introduces-agentic-ai-for-research-and-learning/>
20. Web of Science Research Intelligence | Clarivate, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://clarivate.com/academia-government/scientific-and-academic-research/research-funding-analytics/web-of-science-research-intelligence/>
21. Artificial Intelligence - Clarivate, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://clarivate.com/ai/>
22. 特許申請支援システムの「株式会社 AISamurai」, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://aisamurai.co.jp/>
23. JPDS | イベント | 知財・情報フェア, 9 月 20, 2025 にアクセス、
<https://www.jpds.co.jp/event/other.html>